＜授業実践２＞「季語をつくる」（言語文化　第１学年　２学期）

１　実践にいたる背景

「現代の国語」の実践と同一の近代以降の文章を取り上げ，「言語文化」が重点を置く「読むこと」の領域において授業づくりの一例を示したい。生徒の言葉に対する見方は，表面的な認識にとどまり，本来的な意味や内容と関連付けて学ぶことができていない。そこで，破格ではあるが，季語をつくることで言葉に対する理解を深め，言葉に対する新たな見方を獲得させたいと考え，本実践を設定した。

２　指導目標

(1) 単元の目標（下線部：関連する学習指導要領の指導事項）

・言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解すること。（〔知識及び技能〕(1)ア）

・作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂ読むこと(1)オ）

(2) 言語活動

ア　言語活動

季語をつくる

イ　言語活動のねらい

季語には，伝統的なものの見方や感性が込められている。五感を手がかりに季節の言葉を探しながら，季語をつくる取組によって，季語に内包されている世界の豊かさに触れ，言葉に対する感覚を研ぎ澄まし，新たなものの見方，感じ方を獲得させたい。

(3) 教材

ア　教材　「季節の言葉と出会う」黛まどか（『新編国語総合』大修館書店）

イ　教材観

本教材では，「うつろい」を好み，敏感に感じ取るのは日本人の感性の表れであるとし，季語を知ることで伝統的な美意識を知り，新しいものの見方ができるようになると述べている。そのため，生徒の言葉に対する感覚を磨き，言葉に対して新たな見方をさせるのに適した教材である。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

取り組みたいと思える言語活動にするために，既存の季語を使うのではなく生徒が季節を感じる自作の季語をつくることとした。自分の考えを大切にしながら，グループでの話合いで新たな気付きを得られるようにし，複数の考えの共通点と相違点を探り，更に展開した問いを考えさせることで，季語づくりで生徒が得た知識を活用し，関連付けながら，考えを発展することができるよう心がけた。

３　評価

(1) 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現（読む能力）	主体的に学習に取り組む態度
言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において，作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	積極的に，言葉に対して深く考えをめぐらせ，学習課題に沿って，季語をつくり，季語のもつ言葉の奥行について説明しようとしている。

(2) 評価方法

ア　知識・技能

ワークシートの記述によって評価する。

イ　思考・判断・表現（読む能力）

ワークシートの季語と説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
自分のものの感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつ。	つくった季語や説明文に，個人のものの見方，感じ方が反映されており，伝統的に言葉に内包される世界があるという普遍的な価値観に気付いている。	つくった季語や説明文に，それまでの自己の体験を通した個人のものの見方，感じ方が反映されており，どのような意図でつくったのか説明ができている。	自分なりに季節を意識した季語をつくり，その説明文が書けている。

ウ　主体的に学習に取り組む態度

行動の観察，ワークシートの振り返りや季語，説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
ワークシートの振り返りと次の目標によって，取組を改善していく。	粘り強く取り組み，学習を自己調整することができた。	粘り強く取り組むことができた。	自らの学習について振り返りができた。

4　単元の指導計画（配当６時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準　◆評価方法 ＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次（2時間）	①本文を音読する。 ②内容を読解する。	①語句の意味や読みについて確認させる。 ②発問しながら内容をまとめさせる。	◇知識・技能 ◇思考・判断・表現 ◆記述の確認（ノート） ＊発問について，周りの生徒と相談させる。
第2次（4時間）	①季節を感じる言葉をマッピングする。 ②季語をつくり，説明文を付ける。	①各自で記入させた後，グループで取り組ませ，イメージを広げさせる。 ②マッピングを参考に自作した季語とその説明文を書かせる。	◇思考・判断・表現 ◆記述の確認（ワークシート，マッピング） ◆行動の観察（グループの活動）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準　◆評価方法 ＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第２次（４時間）	③グループ内で季語分析に取り組む。 ④季語・説明文を修正する。	③季節が感じられるか，五感が喚起されるかを確かめ，お互いに疑問や意見を交流させる。 ④個人で考える時間を設け，季語分析を基に，つくった季語についてもう一度考えさせる。	＊進まない班には助言する。 ◆記述の分析 ◇主体的に学習に取り組む態度 ◆記述の分析（ワークシート） ◆行動の観察（グループの活動）
	⑤修正点をグループで発表し合う。 ⑥グループでよかった季語を一つ全体で発表する。 ⑦「よい」季語についての感想を書く。 ⑧なぜ「よい」のかについて話し合う。	⑤修正したポイントをグループ内で説明させる。 ⑥理由も考えさせ，板書する。 ⑦話し合いや黒板のクラス発表の内容から考えさせる。 ⑧「よい季語に共通していることは何か」など，抽象化を促す声かけをする。	
	⑨話し合った内容を発表する。 ⑩共通点，類似点，相違点を考える。 ⑪俳句はなぜ季語を入れるのか考える。 ⑫まとめを書く。	⑨Ａ３用紙にまとめさせ，発表後黒板に貼らせる。 ⑩黒板を見てグループで考えさせ，指名し，クラスで共有させる。 ⑪「よい季語はなぜよいのか」，その答えを発展させる。 ⑫言葉に対する見方について，気付いたことなどを記述させる。	

５　学習活動の実際

季語を自作するためのアイデアを出し合うために，マッピングをしたが，実際にはマッピングよりもグループで話し合うことによって着想を得ていた（資料１）。季語分析（資料２）から学ぶことが多く，言葉をみる観点が明確に与えられ，言葉に対する理解を深めることができた。「よい」季語は具体的に何が「よい」のか共通点を探ることで，言葉に対して多くの気付きを得ることができた。

６　研究の成果と課題

「言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解すること」については課題が残った。「思考・判断・表現（読む能力）」の評価をしてみると，評価Ａに到達した生徒がいなかった。いかに季語が継承されているかということに気付かせたかったのだが，もう少し時間軸を意識させるような問いかけができればよかった。「主体的に学習に取り組む態度」を評価するために，振り返りシート（資

料３）を使用した。振り返りからは授業内の学びや反省を読み取ることはできたものの，まとめの記述と補完し合いながらの評価が必要だと考えた。

季節の言葉と出会う　ワークシート

一年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

季語を作ろう

◇季節を感じる言葉をマッピングしてみよう

◇マッピングした言葉をもとに、季語を作ってみよう

自然　天

最大七音

◇季語　（　暖決　）

説明文（着目したきっかけ、イメージ、視点、理由など）

紅葉が始まると景色が一夜に赤オレンジ黄色といった暖かい色に決まります。だんだん強い秋にも感じることから紅葉の色彩変化という点に着目しました。夏が終わり冬の始まりを感じさせる季節、秋。実に風が吹くこともありますが、もみじやいちょうといった鮮やかな色がゆらゆら動く様は、確かに私たちに暖かさを感じさせます。気温は低くてもパッと暖かくなることから、この季語を思いつきました。

◇グループワークを参考に、季語・説明文を考え直してみよう

グループで話し合ったこと・そこから考えたこと

- 視点によって変わる秋の情景
  ↳（上を向く・下を向く）
- 秋だからこその言葉（秋という季節の代名詞）
- 意味なしに焦点をあてるのもいろいろ
- 何で季節を感じるかが重要

→ 音、味、色、におい

季語　（暖決　）

説明文

秋になると紅葉が始まると、景色が一夜にして赤オレンジ黄色といった暖かい色に決まります。その色彩変化は秋にしかみられないものだと私は思います。夜の始まりを感じる秋。実に風が吹くこともあります。ぶるっと寒さを感じたりすることもあります。気温は低くてもパッと暖かくなるような体験をあらわした言葉です。

◇グループの発表でよいと思った季語（　枯れ葉舞　）

なぜ「よい」と思えるのだろうか。その理由を書いてみよう。

音で季節を感じるというのがおもしろいと思ったから

秋というと紅葉を連想しがちだけれども、ここでは枯れ葉に焦点をあてたのもおもしろいなと思いました。

◇なぜ俳句は季語を入れる決まりになっているのだろうか。

俳句というものは、昔の人がその時の風景や思ったんなことを作った一行日記のようなものだと思う。その時の音や色、雰囲気で感じたものをぎゅっと一言（季語）にまとめることで、読んだ人を読んだだけでその場所に連れていくような文章なのだと思う。

◇まとめ

季語を作ってみて、わかったことや気付いたことを書こう

季語というものはおもしろいなあと思いました。だって一言ぐらい読んだだけでお庭が別世界になる言葉というものは本当に不思議なものだなあと思いました。自分で季語を作るという行為は最初、ちょっと不安だったけれど意外と自分が様々なもので季節を感じているんだなあと思ったし、日本語の美しさというものもあらためてわかったので、あらゆる人の心に響く俳句になるといいなと思いました。

季語分析をしよう！

一年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

（自分　　）さん・くんの季語

暖炉

季節（秋）

〈分かったこと、良かったところ〉

"暖"という言葉をこんだのがよかったと思う。
隣の人が君にこたえ視覚の暖かさと秋の寒さの対比があるというこたえがすごく納得できて、だめになった。

（　　）さん・くんの季語

牙の声

季節（秋）

〈分かったこと、良かったところ〉

様々な牙の声が集まる季節は秋だけだ。
がもっかんとこに想ったをおいたの面すごく長に
と思ったし説明でっかっこに静かな夜にかれく牙
の声にしこーつのが風流を感じてこいなと思った。

（　　）さん・くんの季語

枯れ葉音

季節（秋）

〈分かったこと、良かったところ〉

足元に視点をおいて、音で季節を感じるというのがおもしろいなとおもった。
秋といえば紅葉を連想しがちだけど枯れ葉に焦点をおけたのがすごいと思った。

（　　）さん・くんの季語

ほくほく

季節（秋）

〈分かったこと、良かったところ〉

"食欲の秋"をイメージ上に説明するような言葉だなとおもった。
実に季節だからこその言葉だなと思った。
暗かくてあたたかいものが明に秋にとぴったりだと思った。

「季節の言葉と出会う」　ふりかえりシート

（　　年（　　）組（　　）番　氏名（　　））

単元の目標

①言葉（季語）にはどんな働きがあるのか、考えてみよう。
（それは時代とともに変わってしまうものだろうか）
②言葉を分析して、新たな角度から言葉について考えてみよう
（別の角度から見た言葉はどう見えるだろうか）

◆第一時（第一段落の読解）のふりかえり

（分からないこと、分かったこと、気付いたこと、よくできた点など）

五月雨や野分などの言葉は初めて聞いた。
確かに「秋」という言葉は日本語だけでなく、感じたことのない所が多い。
様々な言葉があることに対して時代の流れを感じた。
私もたくさんの言葉について考えたいと思えた。

↓

次の時間（第二・三段落）の目標

（明らかにしたいこと、もっとこうしたいなど）

日本人としての日本語の美しさを知りたいと思った。

◆第二時（第二・三段落の読解）のふりかえり

（分からないこと、分かったこと、気付いたこと、よくできた点など）

対比という観点から見た日本人特有の感性は、
①とても深く、とても大きく、強くなんだなと思った。
特に秋の歌は、秋を美しと思うのは、やはり日本ならではだと思った。
ふるさとを思う感性なんだなとしみじみ思った。

感性

↓

次の時間（季節の言葉をマッピングして季語作り）の目標

自分が考えて何かを作りたいのはもちろんだが、
だけどいろいろなことにも不安
だ。

◆第三時（季節の言葉をマッピングして季語作り）のふりかえり

季語・説明文についての評価基準

評価A	評価B	評価C
作った季語や説明文に、自分のものの見方、感じ方が反映されており、言葉に含まれる普遍的な価値観に気付いている。	作った季語や説明文に、それまでの体験を通した、自分のものの見方、感じ方が反映されており、意図が説明ができている。	自分なりに季節を意識した季語を作り、その説明文が書けている。

自己評価　（○を付ける）

+A　A−　A　+B　B　B−　C+　C　C−

（分からないこと、分かったこと、気付いたこと、よくできた点など）

私たちの班は「礼」というテーマでした。
このやり方で自分たちで季語を考えて書きたいと思ったから、
いろいろなものを季節を感じているのかなかったものも
いろいろな見方の面ではあまり見つけられなかった。
だ。
ので、これから心を感じて生きていきたい。

次の時間（グループで季語を分析して推敲する）の目標

互いの感性を考えの違いを見つけたい。

◆第四時（グループで季語を分析して推敲する）のふりかえり

季語・説明文についての評価基準

評価A	評価B	評価C
作った季語や説明文に、自分のものの見方、感じ方が反映されており、言葉に含まれる普遍的な価値観に気付いている。	作った季語や説明文に、それまでの体験を通した、自分のものの見方、感じ方が反映されており、意図が説明ができている。	自分なりに季節を意識した季語を作り、その説明文が書けている。

自己評価　（○を付ける）

+A　(A)　A−　+A　B　B−　C+　C　C−

（分からないこと、分かったこと、気付いたこと、よくできた点など）

他の人の意見を聞くことの大切さ
自分の季節感にとらわれないことが
だけでなくいろいろ
その季節の人のもてなしみたい

次の時間（「よい」季語とはどのようなものか考える）の目標

季語のことをもっと考えて季語作りにいこう

◆主体的に学習に取り組む態度についての評価基準

評価A	評価B	評価C
マッピング 季語作り 説明文 話し合い に ①粘り強く取り組み、②季語や説明文を推敲しながら、言葉について深く考えることができている。	マッピング 季語作り 説明文 話し合い に ①粘り強く取り組み、②自らの学習について振り返ることができている。	マッピング 季語作り 説明文 話し合い に ①取り組み、②自らの学習についてふりかえりができている。

自己評価　（○を付ける）

+A　(A)　A−　+A　B　B−　C+　C　C−